

オホーツク水産生物学特論実験（一）（2単位）

担当者氏名 白井 滋・千葉 晋・高橋 潤

◆学習・教育目標（到達目標を記載）

個々の大学院生が扱う水産生物をよりよく理解するために、形態学、生態学、遺伝学など基礎生物学的な調査方法、観察技術および解析手法の基礎と応用を理解する。これらの実験演習と平行して、関連する分野における現状を理解するための論文紹介・輪読等を行う。実際の実験等の結果については、プレゼン発表を通して理解を深める。

◆取り扱う領域（キーワードで記載） ご自身のキーワードを記入してください

水圏生物学 形態学 生態学 遺伝学
分類学 生物多様性

◆授業の進行等について

| | テ ー マ | 内 容 | 準備学習(予習復習)等の内容と分量 |
|---|------------------------------|--|---|
| 1 | 水産動物の分類と遺伝学 (第1-10回)(白井) | ・生物多様性、特に遺伝的多様性に関する論文の紹介、輪読を行い、その実際を学ぶ。集団解析の理論と解析手法について、実際のデータを使用しながら、基礎と応用を学ぶ。 | ◎本科目のねらいは、基礎生物学的な実験技術を体験し、その結果を発表を通してよりよく理解することにある。 |
| 2 | 生態学と生態系保全(第11-20回)(千葉) | ・生態系保全に関する調査・実験を行うとともに、論文紹介を行い、その基礎と実際を学ぶ。実際の研究計画から実験、解析、結果解釈までの流れを体験する。結果について、発表と討論を行う。 | ◎各教員の指示に従い、事前の準備をして授業に臨むこと。各時間の結果をしっかりとまとめておくこと。 |
| 3 | 藻類の分類、形態学および遺伝学(第21-30回)(高橋) | ・藻類の形態学的な観察や関連する論文を通して、分類、生態学的な調査研究の実際を学ぶ。実際のサンプルを使用して、細胞培養の流れを体験し、結果の発表・討論を行う。 | |

◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名/著者/発行所(発行年)

教員から適宜指示する。

◆授業をより良く理解するのに便利な参考書・資料等

書名/著者/発行所(発行年)

教員から適宜指示する。

◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト）

レポート（50点）と発表実技（50点）により評価する。

◆オフィスアワー

基本的に毎週金曜日の午後とするが、不在の際にはメール等で連絡すること。

◆その他受講上の注意事項

修士論文の作成に向けて、実験・作業に慣れ親しむこと。